

## 生徒用資料集

# Chapter 5

# Microfinance

### ■マイクロファイナンスの創設者・グラミン銀行

グラミン銀行創立者のムハマド・ユヌス氏は、アメリカで経済学の博士号を取得し、バングラデシュの大学で教鞭をとっていました。彼は、経済学の多くの問題を教室では理論的に解決できるが、一步外に出ると道には貧困に苦しんでいる人々が溢れている、という状況にジレンマを感じていたといいます。「自分が教えているものは役に立っていないのか」というジレンマを。

そこで、学生らとともにある農村で、貧困の原因について調査を行いました。その結果わかったことは、貧困にある人々は、彼ら自身が生活改善や自立のための自発性を決して持っていないわけではなく、貧困から抜け出す術を持っていない、ということでした。小さくていいから商売を始めようとしてもお金を借りるのに必要な担保を持っていない、知恵で解決しようとしてもお金がないから教育が十分受けられない、そんな状況から抜け出せずにいたのでした。

この結果から、担保となる土地などを持っていなくても、適切な期間と状況の中で資金を運用できるようになれば、貧しい人々は努力をし、大きな発展を遂げられるだろうと、ユヌス氏は考えました。そこで1976年に「農村開発研究プロジェクト」という名のマイクロファイナンスを始めました。貧困の負のスパイラル「低収入→低貯蓄→低投資→低収入」から、「低収入→少額融資→投資→より多くの収入→より多くの融資→より多くの投資→より多くの収入」というスパイラルへ改善することを目的として。

このプロジェクトは次々と成果をあげ、1983年には「グラミン銀行」という独立銀行へと変貌をとげます。グラミン銀行の「グラミン」とは、ベンガル語で「農村」という意味。グラミン銀行はこのように農村での貧困層への貸付を目的として創設され、創設から30年以上たった今でも、そのすべての活動が農村を中心に行われています。



### ■世界の貧困の現状

国連や各国政府などの諸機関は、開発途上国の貧困問題の解決のために世界共通の目標 MDGs (Millennium Development Goals) を掲げています。教科書にもあるようにその目標の1つが「2015年までに世界の極度の貧困を半減する」で、マイクロファイナンスはその目標を達成するのに大きな役割を担っています。では実際には、貧困はどのくらい改善されているのでしょうか。

極度の貧困を1日1.25ドル未満で生活を送る人々としたときの、1990年～2010年の貧困の変化の概要はどうでしょうか。世界全

生徒用資料集は、授業の興味付けに役立つ  
チャプターのトピックに関連した読み物です。

